

「大きくなったら何になりたい？」の次へ



室蘭市医師会
健康ファミリークリニック/ 福祉ファミリークリニック

佐藤 弘太郎

皆さま明けましておめでとうございます。この度、北海道医報編集部より年男として選出されましたので、誠に僣越ながら駄文を投稿させていただき次第です。

さて、日記というにはおこがましい備忘録ノートを振り返ってみますと、サル12年前の2004年1月(医学部5年生時)に「今年やりたい事」と題して「就職・国試・卒試・研修医になるための勉強」と書いていました。バスケットボール三昧のツケによる国試合格への必死さが伝わる文字でしたが、過去の自分にツッコミをいれるなら、これってやりたい事というよりは、やらざるを得ない事だろう、なんて思います。それから12年が経ち、まさか今こそ室蘭・登別で、自分が総合診療医として働いているだろう…なんてことは夢のまた夢、想像だにしていなかったもので、私事ながら驚きです。

またサルサル24年前の1992年(小学校6年生)となると「大きくなったら何になりたい？」という質問に答えた時代になります。私は理科の実験が好きだったので卒業アルバムに「化学者」と回答した記憶がありますが、今のわが家の子どもたちに同様の質問をしたところ、「アンパンマン(3歳)、プリキュア(5歳)、おすし屋さん(7歳)」という返事でした。その上で3歳の息子から「おとうさんは、大きくなったら何になりたいの？」と逆質問を受けました。はて、既に(体だけは)大きくなって久しい私は考え込んでしまいました。「大きくなったら…」という無事に健やかに成長するという前提。「何になりたい？」という成りたいものになれるという無邪気さ。そう考えると私はしばし返答に迷いましたが、「『君たちが大きくなったら〇〇になりたい』と素直に想像できる世の中を維持することかな」と言おうとしてふと、私の回答で変化の対象となっているの

は、自分ではなく世の中だと気づきました。「私は〇〇になりたい」ではなく、「〇〇という世の中になりたい」という答え方です。

ここで、この24歳～36歳の間の一番の成長は、医師としての10年間の臨床経験によるプロフェSSIONALとしての成長はもちろんですが、上記回答。つまり(一見)責任がないことに責任を持つこと。大人として次の世代に責任を持って世の中を受け渡すこと。という発想に自然と変わってきていることだと感じました。これは私自身が、夫・父親としてライフサイクルが進んだ影響は当然として、東日本大震災に発する原発問題、内閣による憲法解釈による安保法案の通過、国際テロなど、私たちを取り巻く社会情勢もあるかと思えます。また地域医療に微力ながら携わる中で、医療は地域の暮らしを守る重要な部分である、一方でそれは一部でしかない、という実感も影響しているのかもしれませんが。

さて、ここまで書いてきて新年、申年の私の方向性が見えて参りました。「変えないためには変わり続けなければならない」という逆説。「家族や職場という身近なコミュニティで各メンバーが気分がよいと感じられる場作り」と「もう少し大きな地域・コミュニティへそれを広げること」の同時進行。これは志(未来への意志と他人への思いやり)の実践とも言えるのでしょうか。ただそれは決して壮大なものではなくて、身近なところから始まる、コツコツと積み上げていくものだろうと思っています。

今年もよい一年になりますように。



本輪西八幡神社にて千歳飴を持つての撮影

本会では、例年新年号に「新春随想」を企画し、年男・年女に当たられます会員諸氏より無作為に選定させていただき、執筆をご依頼申し上げております。

時節がら、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

北海道医師会会員数は、男性7,391名・女性887名の合計8,278名(12月9日現在)。そのうち申年生まれの会員は別表のとおりです。

◇情報広報部◇

(名)

	男性	女性	合計
36歳	44	15	59
48歳	142	27	169
60歳	290	22	312
72歳	84	4	88
84歳	56	6	62
96歳	5	2	7
合計	621	76	697